

令和7年度 評価項目の達成及び取組状況

鳶巣幼稚園

分野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価	評価結果を踏まえた今後の取り組み
			達成及び取組状況	評価		
			達成及び取組状況をふまえ、成果と課題等を明らかにし、自己評価する。その際、必要に応じ、保護者アンケートの結果も含める。	評価基準により段階評価を行う。	評価基準により段階評価を行う。	自己評価及び学校関係者評価をふまえた改善策や次年度の目標を具体的に示す。
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	・園の教育目標に沿って、ねらいを持ち行事や保育に取り組むことができた。 ・学級経営案を作成し、月・週・学期の振り返りをていねいに行い、目標達成を目指した保育の充実に努めた。	4	4	・誰もが分かりやすい教育目標を設定し、共通理解を図りながら職務に取り組んでいく。 ・年間、学期、月、週の計画を早めに立て、見通しを持って学級経営を行うようにする。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達の姿から課題を捉えて保育を行っているか。	・日々の保育の中で、園全体で情報共有を密に行った。子どもを語る会や東ブロック研修等で、外部講師から子どもの見方についての助言を受け、その後の実践に生かした。	3	4	・来年度も配慮を要する園児が入園してくる予定である。今年度と同様に、日々の情報共有に加え、子どもを語る会の開催などで、一人一人の背景を含めた幼児共通理解を深める。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	・今年度特別な配慮が必要な園児が入園した。園児の実態がわからず、支援については手探りの状態であった。どのように支えていくか全職員で子どもを語る会を開いて検討したり、日々改善を行ったりして精一杯に対応した。	3	4	・年度の早い段階で語る会を行い、どのような課題があり、それに対する配慮・支援が必要になるかを探り、日々情報共有を行いながら、支援内容の改善に努めていく。また、補助教諭任せにならないように園全体で支援する体制を構築する。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	・人権・同和研修に積極的に参加し、職員自身の人権意識の向上に努めた。また、PTA研修として、「子どもの人権」について、講師を招いて研修し、保護者の子どもの人権への意識の向上を図った。	4	4	・教師が子どもにとっては最大のお手本であるという意識を強く持ち、自らの言動に責任を持つようにする。また、気になることについてはその場で指導を行う。 ・人権感覚や知的理解の向上のため、職員が積極的に研修に参加する。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	・園児数は昨年度と同じ6名であるが、今年度は年少組が3名であったため、行事の内容の検討が必要になった。園児の実態やねらいに応じて時期・内容の改善を随時行った。	4	4	・今年度と同様に、園児の実態（年齢構成の変化等）や前年度の課題を考慮して、行事の適切な内容・方法を検討し、行事の質を落とさないように工夫をしていく。補助教諭等とも情報を共有し、共通理解した上で行事を立案・実施していく。
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	・今年度は昨年度より小学校との交流が少なかった。連携の工夫が必要である。一方、川跡幼稚園や北陽小学校区の保育園との交流は、計画的に行うことができた。	3	4	・川跡幼稚園や5園交流会などと幼保連携を進めていく。 ・来年度は子ども同士の交流だけでなく、小学校職員との交流にも積極的に参加していく。
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域（未就園児等）との協力関係はできているか。	・例年通り、鳶巣コミセンを中心に鳶巣地区の「人」「もの」「こと」を保育活動に取り入れた。未就園児教室への参加が少なく、園児との交流は2回のみとなった。園児数減少によりあいさつ運動等検討が必要である。	3	4	・家庭との連携は、今年度同様に行っていきながら信頼関係を構築していく。また、鳶巣地域の教育資源を生かし、質の高い保育活動を展開していく。今年度同様に地域への貢献を来年度も続けていく。 ・幼稚園ブログを通して、幼稚園の良さについて情報発信を継続する。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	・市幼研東ブロック研修会の会場園となり、保育を公開した参加者より多様な意見をいただき今後の参考となった。園全体として協力して研究に取り組むことができた。	4	4	・来年度は、研究の3年次にあたる。今年度の成果や課題を生かし、異年齢混合学級の保育の望ましいあり方について研修を深めていく。 ・さまざまな研修機会を捉えて積極的に研修に参加し、指導者としての資質・能力の向上に努める。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	・一人担任であるので、負担が過剰にならないように配慮しながら園務を進めた。 ・小さなことでも日頃から職員同士の声がけを行い、協力しながら計画的に園務を遂行することができた。	3	4	・職員数が少ないため、意思の疎通が図りやすい長所を生かして、日頃から情報の共有を行い、協力が必要な場合には、柔軟に対応する。 ・一人一人の園務分掌については、加重負担にならないように年度途中での見直しを適時行う。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	・年間4回地震・水害・火災の避難訓練を計画的に行い、危機への対応能力の向上に努めた。1月の地震の際には、訓練したことが確実に実施できた。今年度は不審者対応訓練も実施し、危機対応能力の向上に努めた。	3	4	・危機管理マニュアルを年度当初に全職員で確認する。 ・危機発生時に、常勤職員はメールを発出できるようにしておく。 ・危機における避難等、隣接する鳶巣コミュニティセンターとの連携を日常的に図る。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	・月に一度の安全点検を確実に実施し、危険の早期発見に努め、必要に応じて迅速に対応した。	4	4	・毎月の安全点検を確実に実施し、危険の早期発見に努める。発見した場合には、関係部署と連携を密にとり、迅速に対応する。 ・毎日、朝の点検を行い情報の共有を全職員で図り、迅速に対応する。

※評価基準 4：十分達成している 3：概ね達成している 2：改善を要する部分がある 1：大いに改善を要する